

## 平成30年度京都府公立高等学校入学者選抜前期選抜における共通学力検査の出題について

### <出題方針>

中学校学習指導要領に基づき、各教科とも中学校で学習する基礎的・基本的な内容に重点を置くとともに、知識・技能等を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等が的確に把握できる出題とする。また出題範囲は、中学校学習指導要領の趣旨に沿った、標準授業時数での学習範囲において、生徒が履修している各教科の内容を踏まえた適切なものとなるようにする。

### <特徴>

#### 基礎・基本の定着、論理的な思考力や判断力・表現力をみる

中学校で学習する基礎的・基本的な内容の定着と、基礎・基本の理解からその発展的問題への思考過程をみるとともに、生徒が身に付けた様々な知識・技能等を活用して総合的に考え、判断・解決し、表現できるかどうかをみる記述式の解答を求める問題を設けた。

### <各教科の特色と傾向>

#### 【国語】

- 1 大問一および大問二では、文章の構成や論理の展開を踏まえて内容を理解する力をみるとともに、理解した内容を適切に表現する力をみた。また、言葉の特徴やきまりに関する事項、漢字に関する事項についての問題と、「話すこと・聞くこと」に関連する問題、歴史的仮名遣いについての問題を設けた。

〔出典〕 「なぜ芭蕉は至高の俳人なのか」大輪 靖宏（祥伝社）

「人文知3 境界と交流」村本 由紀子（東京大学出版会）

大問一の本文は、「おくのほそ道」の文学性について述べた文章であり、大問二の本文は、自己と他者の関係性について述べた文章である。本文の内容を的確に理解することで、人生について考えを深め、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を培う契機となることを期待する。

- 2 大問三では、中世の文章を題材とし、内容を読み取る力をみた。また、本文に関する会話を読み、話合いの進み具合を客観的に把握する力や、グラフなどの資料を効果的に活用する力をみた。なお、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、筆者の思いや我が国の文化と伝統などについて考える出題となるように留意した。

〔出典〕 「徒然草」（「新編日本古典文学全集」小学館より）

鎌倉時代に兼好法師（卜部兼好）が著した随筆。

本文は、ある人物に起こった不思議なできごとについて述べた文章である。本文の内容を読み取ることで、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、古典の世界に親しむ態度が養われていくことを期待する。

#### 【数学】

- 1 数量や図形などに関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得できているかどうかをみるとともに、それらを活用して様々な事象を数理的にとらえ、見通しをもって論理的に考察する能力をみるように工夫した。また、2つの三角形が相似であることを証明する問い（答の番号【15】）については、根拠を明らかにし、筋道立てて考えたことを表現する能力をみた。
- 2 資料の活用の領域と数と式の領域を関連付けた問い（答の番号【14】）や、各学年の学習内容を関連付けた問いを設け、異なった領域や学年の学習内容を統合的に活用できるかどうかをみた。また、玉と箱の組み合わせに関する問題（大問6）については、周期性のある複数の法則を読み取って適切に処理する問いを設け、数学的な思考力・判断力・表現力を段階的にみるように工夫した。

#### 【英語】

- 1 全体をとおして、生徒の身近な暮らしに関わる場面についての問題を設け、英語でのコミュニケーション能力の基礎となる知識・技能を習得しているかどうかをみるとともに、それらを活用して思考・判断・表現する力が身に付いているかどうかをみた。
- 2 絵を見て会話文を完成させる記述式問題（大問1）では、言語の使用場面や働きに留意しながら基本的な語彙や文法などの知識を活用して、状況に合ったふさわしい表現ができるかどうかをみた。
- 3 長文問題では、スタイルの異なる2つの文章から出題し、語句や文、文法などに関する知識が身に付いているかどうかをみるとともに、内容を正しく読み取る力をみた。さらに、映画の上映スケジュールに関する会話を題材とした問題（大問2）では、必要な情報を整理して読み取る力をみる問いを設け、物事に熱心に取り組んだ経験を題材とした問題（大問3）では、論旨を踏まえて適切に英語で表現する力をみる問いを設けた。
- 4 リスニング問題では、会話やニュースなどまとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞き取り、正しく理解し、内容に関する質問に対して適切な応答を考える力が身に付いているかどうかをみた。